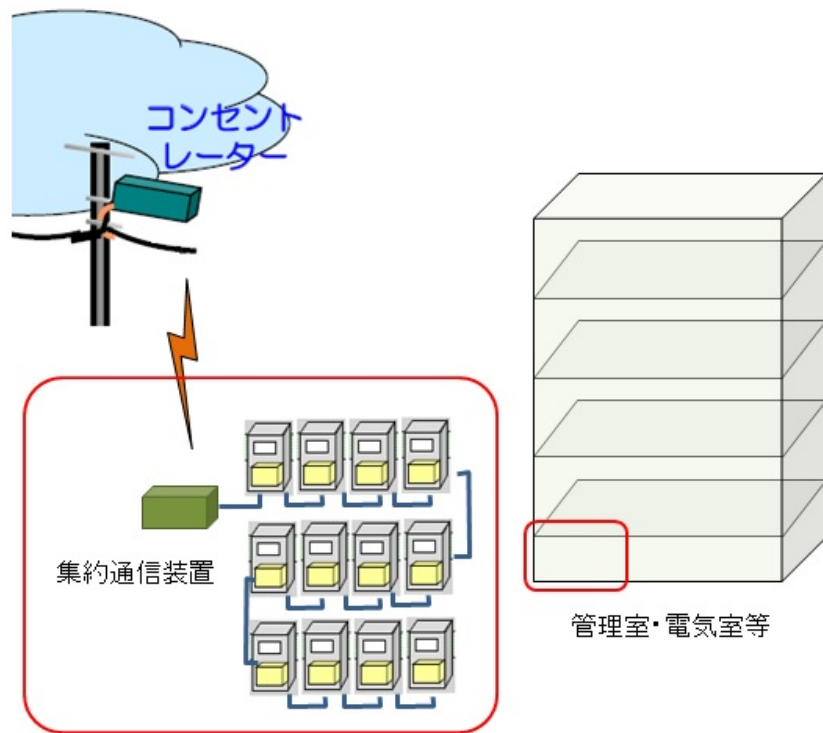


ご意見の内容及びご意見に対するご回答

意見提出元：株式会社エイチ・エル・シー

No	該当箇所	ご意見の内容	ご回答
1	記載なし	<p><意見内容></p> <p>集約通信方式(添付資料参照)を採用することにより、集合住宅における通信の安定性の確保及びシステム全体で見た場合のコストダウンが可能である。</p> <p>(同提案を計器の意見概要書・兼回答書にても提出させていただきましたので合わせてご検討ください。)</p> <p>1) 管理室等の共用部分に各戸の通信装置を搭載していないスマートメーターを設置する。</p> <p>2) 各スマートメーターを、通信用モジュラーにて接続する。</p> <p>3) すべてのスマートメーターの計測データは、終端に設置された集約通信装置よりコンセントレーターを介して MDMS と通信する。</p> <p>(集約通信方式の添付資料)</p> <p>以上のようにシステムを構成することにより、集合住宅における通信の安定性の確保及び、システム全体でのコストダウンが可能である。</p>	<p>いただいたご意見については、安定的な通信確保の観点から、今後の通信方式選定時の参考にさせていただきます。通信方式の選定においては、コスト、技術の優位性、今後の普及や長期利用の見込み等の見極めが重要となるため、確立された標準規格の採用を原則として、今後、RFP と技術実証により詳細に評価する予定です。</p>



<理由>

1ヶ所に設置されたスマートメーターは個々に無線通信機能を搭載する必要はなく、すでに搭載されている通信用モジュールにて集約通信装置と通信すればよい。

スマートメーターの終端に接続された集約通信装置で、コンセントレーターを介してMDMSと通信を行えばよい。

当構成によりシステム全体でのコストダウンが可能である。

2	記載なし	<p>スマートメーターの終端に接続された集約通信装置で、コンセントレーターを介して MDMS と通信を行えばよい。</p> <p>当構成によりシステム全体でのコストダウンが可能である。</p> <p><意見内容></p> <p>遠隔検針(AMI/AMR)用の通信プロトコルである国際規格の DLMS/COSEM(IEC62056)を採用する。(同提案を計器の意見概要書・兼回答書にでも提出させていただきましたので合わせてご検討ください。)</p> <p>また、高速PLC通信の採用も検討願います。</p> <p><理由></p> <p>国際規格 IEC62056 に対応することで汎用性及び今後の拡張性が確保できる。</p> <p>高速PLCの採用は DLMS/COSEM の本来の通信性能を最大限に発揮させるためである。</p>	<p>データフォーマットや通信手順に関する現行仕様については、弊社の運用ニーズに特化したものとしておりましたが、様々なメーカーの新規参入の促進による中長期的なコストダウンの観点から、標準規格への準拠を志向して検討いたします。</p> <p>また、高速PLCの利用については、総務省の情報通信審議会に情報通信技術分科会 高速電力線搬送通信設備作業班が設置され、防犯カメラ、電気自動車用充電スタンド等への適用について検討が進められております。当社としましては、高速PLCの普及に伴って技術面、コスト面での優位性が明確になり、また利用ニーズが具体化した時点で、スマートメーターへの適用について要望することを検討してまいりたいと考えております。</p>
3	記載なし	<p><意見内容></p> <p>スマートメーターの管理用として RFID を採用する。</p> <p><理由></p> <p>RFID を利用する場合の利点は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出荷から設置完了まで一元管理が効率よくできる。 2. 設置終了後の MDMS への登録作業を RFID を利用することにより効率よく管理できる。 	<p>スマートメーター管理用媒体については、現地設置から登録までの業務フローを検討した結果、RFID よりも安価な QR コードを採用することとしております。</p>